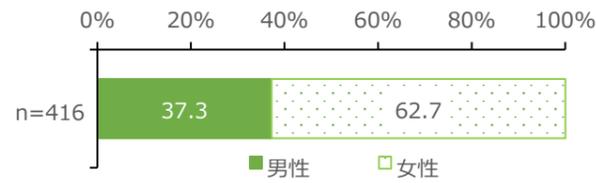


在留外国人アンケート調査 報告

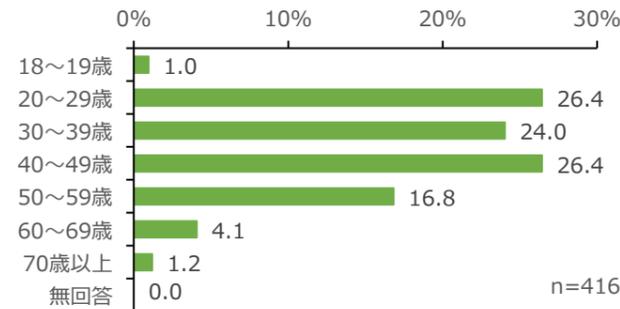
調査目的：本県に居住している外国人の生活実態やニーズを把握するとともに、新型コロナウイルス感染症による生活等への影響を把握することで、多文化共生社会づくりの推進に向けた施策立案の参考とすることを目的とした調査
 調査内容：在留外国人 2,000 人を対象としたウェブによるアンケート調査（有効回収数 416 票）

基本情報

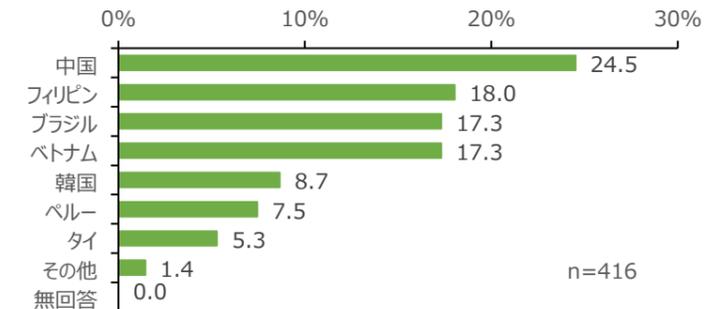
Q1.性別：男性より女性が多い



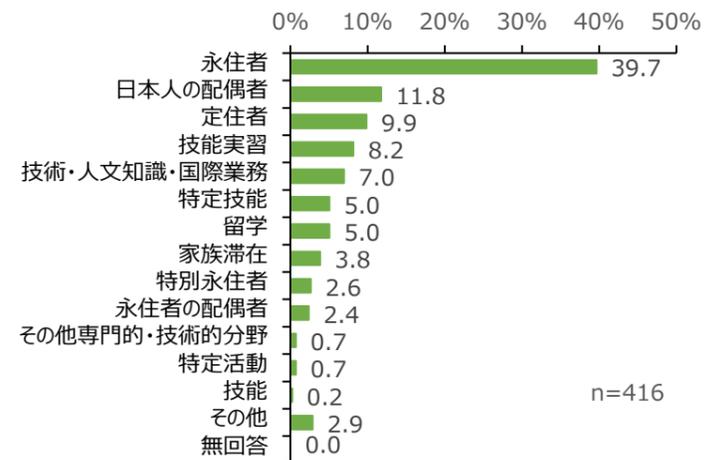
Q2.年齢：20 歳代と 40 歳代がそれぞれ最も多くなっている。



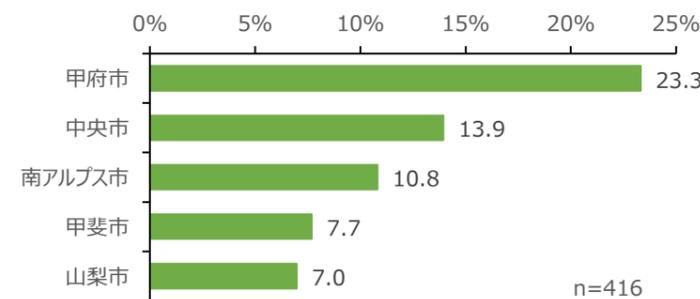
Q3.国籍：「中国」が最も多く、「フィリピン」、「ブラジル / ベトナム」と続いている。



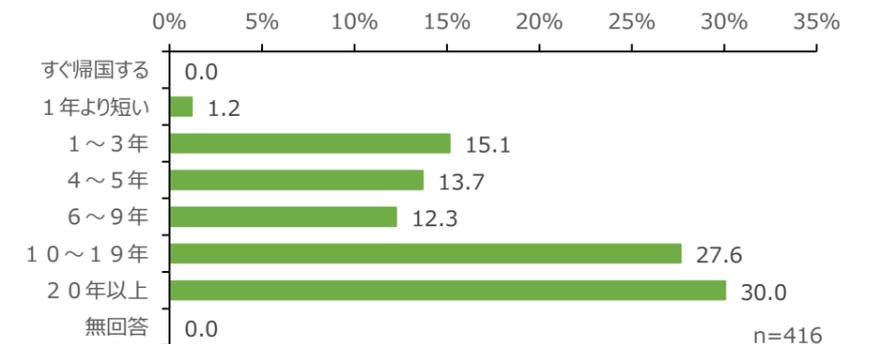
Q4.在留資格：「永住者」が最も多く、「日本人の配偶者」、「定住者」と続いている。



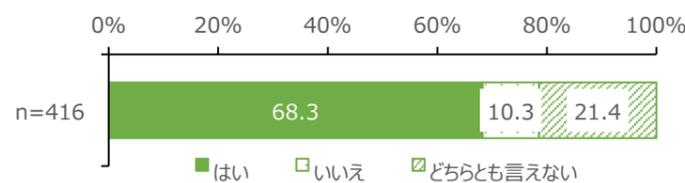
Q5.居住地域：「甲府市」が最も多く、「中央市」、「南アルプス市」と続いている。（上位第 5 位まで表示）



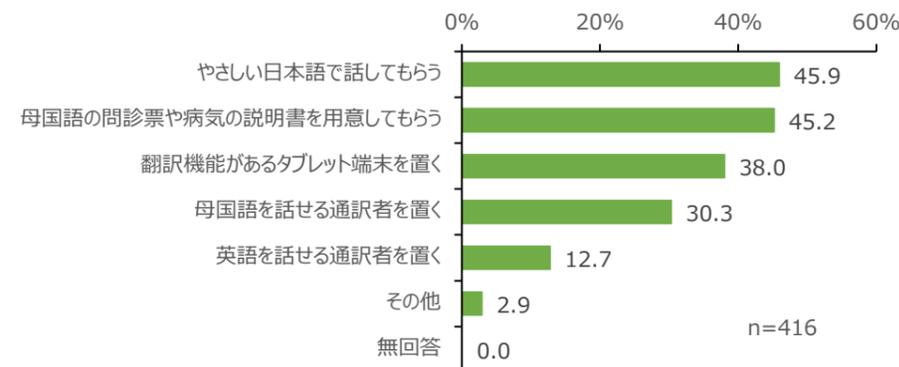
Q6.居住年数：「10 年～19 年」、「20 年以上」を合わせた <10 年以上> が 6 割近くを占める。



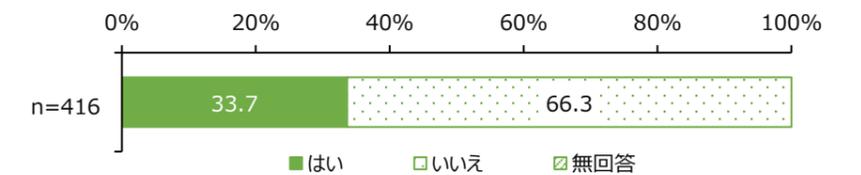
Q7.病院での外国人対応：「満足している（はい）」が最も多く、「どちらとも言えない」と続いている。



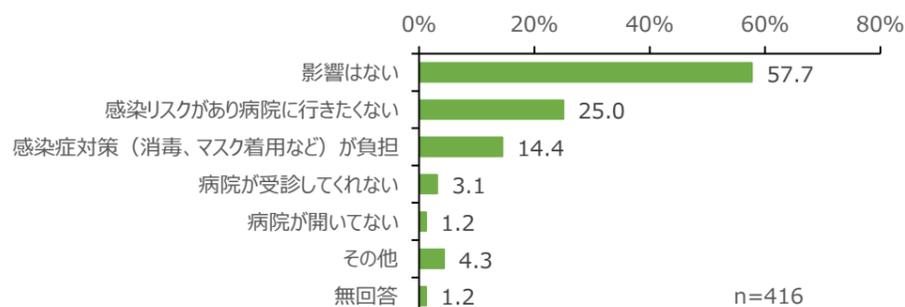
Q8.病院が外国人に対して配慮する必要があること：「やさしい日本語で話してもらう」が最も多く、「母国語の問診票や病気の説明書を用意してもらう」、「翻訳機能があるタブレット端末を置く」と続いている。



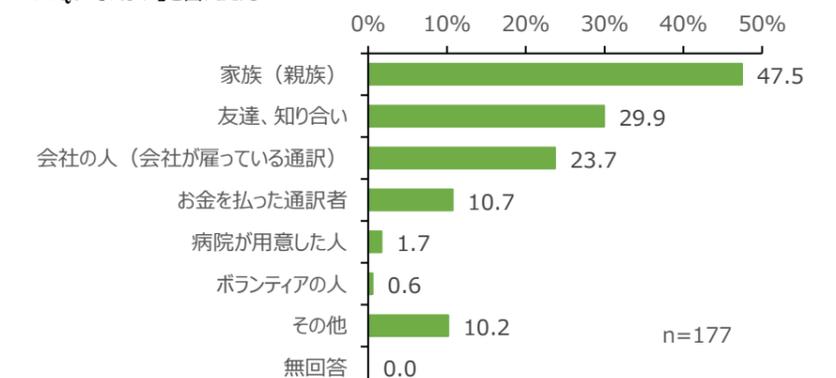
Q9.病院に行くときに通訳をお願いした経験：「いいえ」が 7 割近くとなっている。



Q11.新型コロナウイルス感染症による病院受診への影響「影響はない」が最も多く、「感染リスクがあり病院に行きたくない」と続いている。



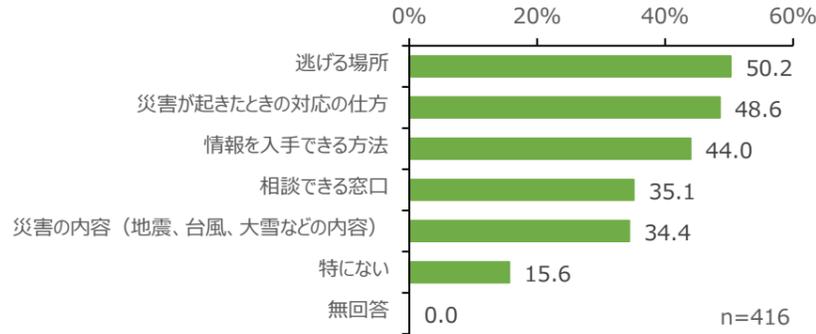
Q10.通訳を依頼した人：「家族」が最も多く、「友達、知り合い」、「会社の人」と続いている。
※Q9で「はい」と答えた方



医療について

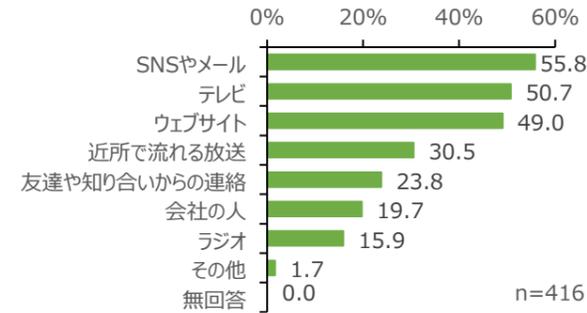
災害・防災について

Q12. 災害について、知っておきたいこと：
「逃げる場所」が最も多く、「災害が起きたときの対応の仕方」と続いている。



Q13. 災害に関する言葉がわかるか：
「わからない言葉もあるが、わかる言葉の方が多い」が最も多く、「わかる言葉もあるが、わからない言葉の方が多い」と続いている。

Q14. 地震や台風、大雪などの緊急時の情報の希望取得方法：
「SNS やメール」が最も多く、次いで「テレビ」と続いている。

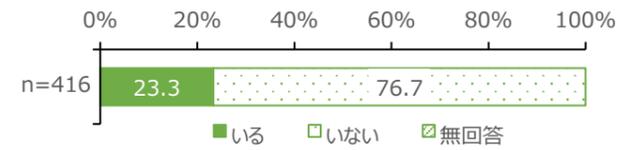


Q15. 今後、災害や防災に関する知識を学びたいと思うか：
「はい」が8割強、「いいえ」が2割弱となっている。



学校の教育について

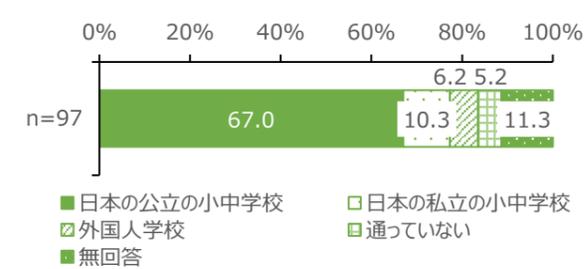
Q16. 6歳～15歳の子どもの有無：
「いない」が7割半強で、「いる」より「いない」ほうが多くなっている。



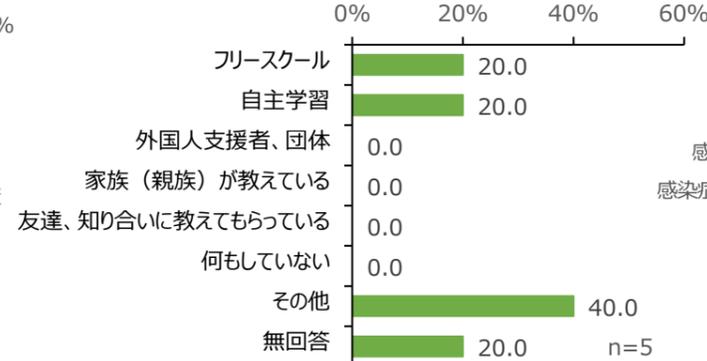
子どもの人数：
「1人」が最も多く、次いで「2人」と続いている。



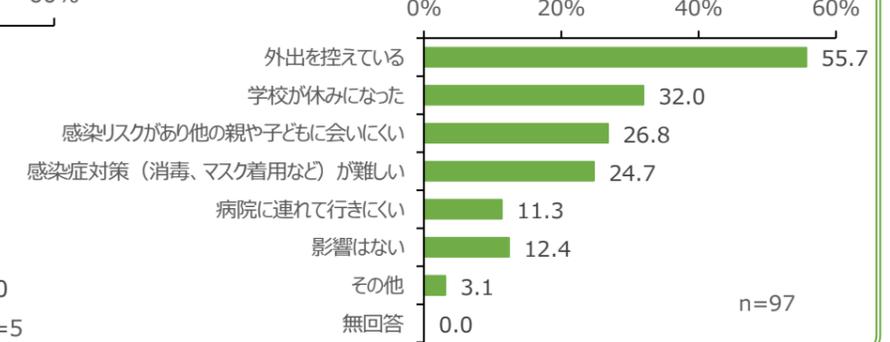
Q17. 通っている学校：「日本の公立の小中学校」が最も多く、「日本の私立の小中学校」と続いている。



Q18. 学校以外での学習環境：
サンプル数 20 以下のため参考値とする
※Q17で「通っていない」と答えた方

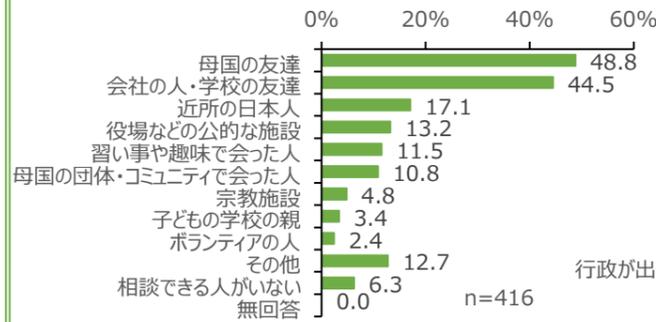


Q19. 新型コロナウイルス感染症による教育環境への影響：
「外出を控えている」が最も多く、「学校が休みになった」、「感染リスクがあり他の親や子どもに会いにくい」と続いている。

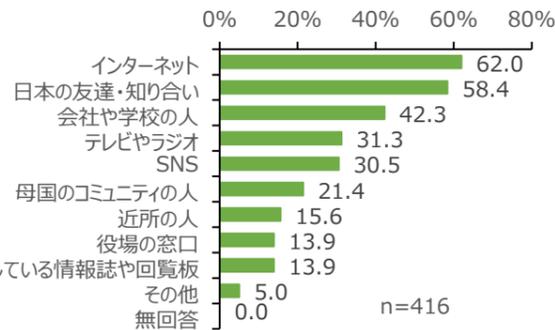


暮らについて

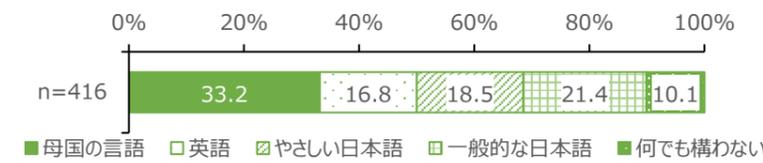
Q20. 困った時の相談相手：「母国の友達」が最も多く、「会社の人・学校の友達」、「近所の日本人」と続いている。



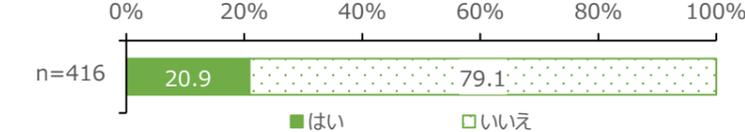
Q21. 生活に関わる情報の入手方法：
「インターネット」が最も多く、「日本の友達・知り合い」、「会社や学校の人」と続いている。



Q22. 生活に関わる情報の入手に便利な言語：
「母国の言語」が最も多く、「一般的な日本語」、「やさしい日本語」と続いている。



Q23. 「やまなし外国人相談センター」を知っているか：「知っている」は約2割、「知らない」は約8割となっている。

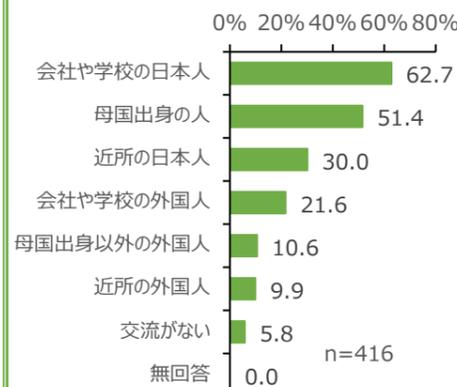


Q24. 新型コロナウイルス感染症により一番影響を受けていること：
「お金」が最も多く、「仕事」、「母国のコミュニティの人との付き合い」と続いている。

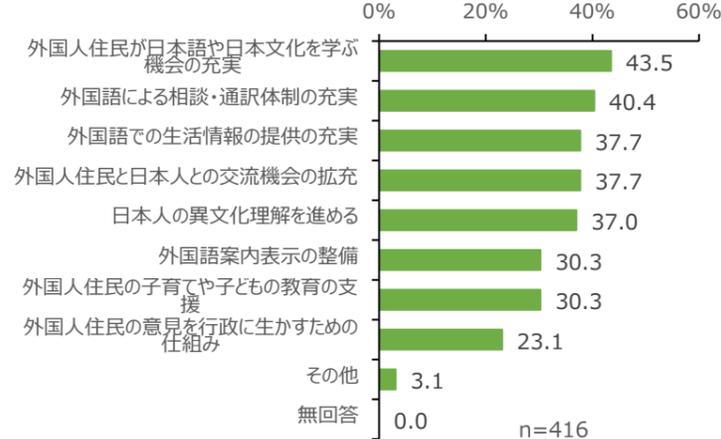


多文化共生について

Q25. 交流相手：
「会社や学校の日本人」が最も多く、「母国出身の人」、「近所の日本人」と続いている。



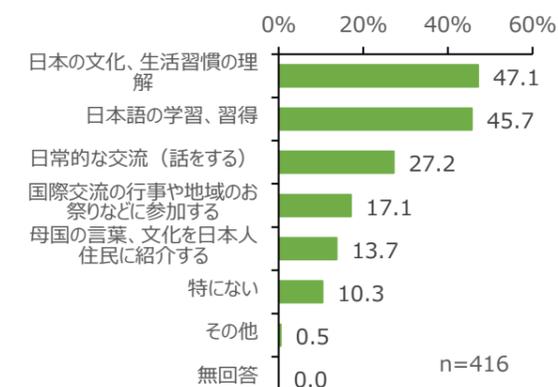
Q26. 外国人住民が暮らしやすい地域にするために必要なもの：
「外国人住民が日本語や日本文化を学ぶ機会の充実」が最も多く、「外国語による相談・通訳体制の充実」、「外国語での生活情報の提供の充実」と続いている。



Q27. 外国人住民が暮らしやすい地域にするために日本人住民に必要なもの：
「外国の文化、生活習慣の理解」が最も多く、「日常的な交流（話をする）」、「日本語、日本の習慣を外国人住民に紹介する」と続いている。



Q28. 外国人住民が暮らしやすい地域にするためにあなた自身がしたいこと：
「日本の文化、生活習慣の理解」が最も多く、「日本語の学習、習得」、「日常的な交流（話をする）」と続いている。



Q29. 山梨県は外国人住民にとって暮らしやすい地域だと思うか：
「はい」が6割半強、「いいえ」が1割弱、「どちらとも言えない」が3割弱となっている。

